

【都道府県用中間報告書様式】

都道府県番号	23
都道府県名	愛知県

【都道府県教育委員会における学力向上フロンティア事業の取組】

・学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール)	中学校 (うちフロンティアスクール)	計 (うちフロンティアスクール)
愛知県学力向上推進地域	988校 (18校)	412校 (18校)	1400校 (36校)

・学力向上推進協議会(地区協議会)の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
名古屋地区協議会 (名古屋市)	260校 (2校)	109校 (2校)	369校 (4校)
丹葉・中島地区協議会 (江南市、尾西市、 木曽川町)	97校 (2校)	43校 (2校)	140校 (4校)
愛日地区協議会 (尾張旭市、春日井市、 小牧市、師勝町)	131校 (2校)	58校 (2校)	189校 (4校)
海部地区協議会 (津島市、佐屋町、 立田村、十四山村)	49校 (2校)	22校 (2校)	71校 (4校)
知多地区協議会 (東海市、武豊町)	82校 (2校)	38校 (2校)	120校 (4校)
西三河地区協議会 (岡崎市、刈谷市、 碧南市、額田町)	136校 (2校)	56校 (2校)	192校 (4校)
豊田加茂地区協議会 (豊田市、三好町)	86校 (2校)	28校 (2校)	114校 (4校)
新城設楽地区協議会 (新城市、設楽町)	37校 (1校)	12校 (2校)	49校 (3校)
東三河地区協議会 (豊川市、蒲郡市、 田原市、小坂井町)	111校 (3校)	46校 (2校)	157校 (5校)

・都道府県教育委員会としての支援策

(1) 地区別協議会に対して

県内すべての小・中学校に学力向上フロンティアスクールの実践研究の成果を普及できるよう、県内を9地区に分けて、地区ごとに推進協議会を設置している。

県学力向上推進協議会において、地区協議会の情報交換ができるよう、取組状況のレポート交換や中間報告の場を設けている。

各地区協議会において、地区フロンティアティーチャー研修会を開催するよう働きかけている。

(2) 域内の各小・中学校（含：学力向上フロンティアスクール）に対して

県学力向上推進協議会において、年度ごとの協議題を設定し、学力向上フロンティアスクールの実践研究の推進をサポートしている。15年度は、協議題を「発展的・補足的な学習のための教材の開発」とし、アドバイザー（大学助教授）による理論研修や個に応じた指導を充実する上で課題となる発展的な学習や補足的な学習の在り方とその教材の開発についての諸課題を協議して、その内容を学力向上フロンティアスクールに普及している。

地区協議会の担当指導主事は、域内の学力向上フロンティアスクールの取組状況を視察し、実践研究に対する適切な指導・支援を行っている。

(3) 実践研究成果の普及方策の構築

県学力向上推進協議会では、学力向上フロンティアスクールの実践研究の成果（15年度の協議題に関する内容）を冊子にまとめ、県内すべての小・中学校へ配布して、個に応じた指導を充実するための参考資料として活用を図っている。

学力向上推進地区協議会のホームページを立ち上げ、各フロンティアスクールのホームページにリンクさせ、各校の実践研究の普及に努めている。

・学力把握のための都道府県としての取組について

現状では、県として学力把握のための調査について考えていない。

学力向上フロンティアスクールにおける学力調査結果を参考にして、児童生徒の学力の状況を把握していく。

・学力向上推進協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

学力向上フロンティア事業関係者打合せ会 5月6日

（講師1、フロンティアスクール関係者36、地区協議会担当指導主事9）

第1回 8月7日

（学識経験者1、PTA関係者1、国立・私立学校関係者2、フロンティアスクール代表者6、教育委員会関係者7、事務局4）

第2回 2月4日（参加者同上）

(2) 協議会の主な内容等

関係者打合せ会「学力向上フロンティア事業の実施について」

- ・ 講師による理論研修、事業概要等の説明
- ・ 予算執行に係る留意事項の説明等

第1回「発展的・補足的な学習の展開」

「本年度の協議題は、『発展的・補足的な学習のための教材の開発について』であるが、特に本年度から研究が開始されたフロンティアスクールにおいては、現段階(8月)では発展的・補足的な教材の開発までは困難であると考え、『発展的・補足的な学習の展開』と研究成果の普及方策等について協議

- ・ 補足的な学習、発展的な学習は、学習を定着させるためのものであるため、単元の途中途中で行うのではなく、単元の終わりに位置づけるべきではないか。発展的な学習は、あまり特別な問題を作らなくても、学習展開の中でいろいろな問題が出てくるので、それらを発展的に取り上げていけばよいのではないか。
- ・ 補足的な学習を、その単元の中での補充と考えるのか、算数なら算数全体の基礎的・基本的な学力の補充と考えるのかを明確にし、どこの時間に位置づけるのかといったあたりをどう捉えていくのかが大事なことである。
- ・ 英語ということで考えるならば、小学校と中学校との交流が可能だと思われる。また、そうした交流などから、フロンティアスクール以外の学校への普及ということも考えられる。
- ・ 保護者にアンケートをとってみると、ある小学校で習熟度別に分けることに反対という保護者が約10%いた。その意見を分析してみると、やはり子供たちの学力に差が出るのではないかという見方が多かった。そうしたアンケート調査等を踏まえて、保護者への説明会を行い、基礎的・基本的な学力の確立が主目的であるということを納得してもらう必要がある。
- ・ 理解の速い子も遅い子もいるが、いずれにしても子供たちに満足感や充実感が味わえるということをねらいとする発展的・補足的な学習でなければならないことを説明したところ、10%の反対する保護者も理解してくれた。発展的・補足的な学習ということだけでなく、学校がやろうとしていることを保護者に理解してもらう必要がある。
- ・ 補足的な学習グループであったとしても、そこにいる子にとっては、そこでの教材が発展的な学習であると捉えることができるような仕組みを作っていくことが発展的・補足的な学習をうまく展開していくポイントではないか。
- ・ 教師の指導力の向上ということをもっと考えていくべきで、新しい取組をしたとき、教師自身の指導力が伸びたとか、ここまで変わったということを中心にしていきたい。
- ・ フロンティアスクールの実践研究の成果を普及するために、学力向上推進協議会のホームページ開設とフロンティアスクールへのリンク及び研究報告書の作成・配布を行う。

第2回「発展的・補足的な学習の展開と、その教材の開発(成果と課題)」

フロンティアスクールと地区協議会の取組状況について報告を受け、本年度の成果及び次年度の計画について協議

- ・ 少人数学習集団を習熟度別、関心別などで分けているが、どのコースにも発展的な学習、補足的な学習が必要である。したがって、どのコースにも発展的・補足的な教材を準備してあるが、ただ、どのコースを選択したとしても、最低限B基準をクリアするように指導している。
- ・ 評価規準のBに達しない子供たちには補足的な学習、Bに達した子供で学力をもう少し上に向けていこうという子には発展的な学習ということになるが、そうすると習熟度別のグループがいくつかに分かれるだろうし、個別指導というものも必要になってくる。
- ・ 愛知教育大学の学生ボランティアにそれぞれのコースに入ってもらい、きめ細かな指導をしてもらっているが、ボランティアをどのように活用し、生かしていくかが今後の課題である。
- ・ 授業改善を全職員で行っている。特定の教科ではなくて、全教科で取り組んでいくということと、学習に対する生徒の姿勢をしっかりと確認させるという、この2つの目標を全職員に呼びかけている。職員は研究授業を通して授業改善に意欲的になってきたし、生徒たちに「できる喜び」「分かる楽しさ」を味わわせることで学習に対して、意欲的になってきている。

・ 実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

(事業評価の実施方法・内容)

学校訪問または要請訪問

名古屋市教育委員会及び各教育事務所の指導主事による学校訪問等の機会に、実践研究に関する理論や実践についての取組を精査し、指導・助言を行う。

教育課程実施状況調査等の活用

フロンティアスクールにおいて、国立教育政策研究所が行った教育課程実施状況調査等を活用し、児童生徒の学力の状況をとらえる。

学力向上推進協議会等による検討

フロンティアスクールにおける公開授業やホームページの公開などによる研究成果の普及により、各小・中学校における個に応じた指導の充実が図られているか、発展的・補足的な学習の展開と、その教材の開発に工夫がなされているかなどを学力向上推進協議会等で検討し、当面する課題を明らかにして実践研究の推進に生かす。

(進捗状況〔成果、課題等〕)

<成 果>

- ・ 地区協議会担当指導主事を中心にして学校訪問または要請訪問を実施し、フロンティアスクールの実践研究の推進を積極的に指導・支援してきた。
- ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善や、評価を生かした指導改善への取り組みが浸透してきた。少人数指導についても多様な実践研究をもとに新たな手法を取り入れた独自の指導方法を工夫するフロンティア校が出てきた。
- ・ 研究実践2年目となって、算数の習熟度別少人数指導に児童・指導者ともに慣れてきたフロンティアスクールもあり、子どもたちの学習意欲の高まりが感じられるようになってきた。
- ・ 少人数指導やチームティーチングなど指導体制の工夫、教材・教具の開発など、学力向上をめざした具体的な展開によって、徐々にその成果を感じることができるようになった。個々の児童生徒への指導機会の増加によって、教師と児童生徒とのふれあいも増え、児童生徒の学習への意欲向上がみられる。

- ・ 地区内のフロンティアティーチャーによる情報交換会等を開催し、フロンティアティーチャーの養成に努めてきた。また、フロンティアスクールの要請訪問等に応じて、適切な指導・支援など、実践研究の積極的な推進を図ってきた。
- ・ 自主研究発表会で500名以上の参観者があったフロンティアスクールにおいて、分科会での積極的な意見交換が行われるとともに、教師の指導力の評価について講演が実施され、その点について一歩踏み出すことができた。

<課 題>

- ・ 指導形態の改善（少人数指導や習熟度別指導）ばかりがクローズアップされ、第一のねらいとして挙げられている「個に応じた教材の開発」といった観点からの研究に深まりが感じられない点を改善していくことが今後の課題としてあげられる。
- ・ 個人差を考慮し、個に応じた教材のさらなる工夫や、より効果的に学習指導するための習熟度別少人数指導のコース編成等について、さらに工夫する。
- ・ 今後は、児童生徒の実態に応じた効果的な「指導と評価」に対する研究の推進を深めたい。

【地区協議会における特色ある取組】

地区内の学校に対する支援策

- ・ フロンティアスクールの学校訪問等の機会に、学力向上向けの指導方法・指導体制等を精査し、指導・助言を行ってきた。（名古屋地区協議会、丹葉・中島地区協議会、愛日地区協議会、海部地区協議会、知多地区協議会、西三河地区協議会、豊田加茂地区協議会、新城設楽地区協議会、東三河地区協議会）
- ・ 域内公立小・中学校教務主任等がフロンティアスクールの公開授業を参観し、研究の成果を自校で報告した。（名古屋地区協議会、丹葉・中島地区協議会、愛日地区協議会、西三河地区協議会、新城設楽地区協議会、）
- ・ フロンティアティーチャー研修会等を実施し、各フロンティアティーチャーの取組状況をもとに情報交換を行い、共通理解を図ったり、各校の課題についての意見交換を行ったりした。（丹葉・中島地区協議会、海部地区協議会、西三河地区協議会、新城設楽地区協議会、東三河地区協議会）

研究成果の普及の方策

- ・ 域内の小中学校教員等を対象にフロンティアスクールでの授業公開を実施し、具体的な指導方法・指導体制等の普及に努める。（名古屋地区協議会、丹葉・中島地区協議会、愛日地区協議会、海部地区協議会、西三河地区協議会、新城設楽地区協議会、東三河地区協議会）
- ・ フロンティアスクールへのホームページ開設及び更新を依頼するとともに、地区内の学校にフロンティアスクールのホームページ紹介をし、活用を促す。（名古屋地区協議会、丹葉・中島地区協議会、豊田加茂地区協議会）
- ・ 地域内のフロンティアスクールの研究経過についての交流を図るとともに、研究成果を各市町教育委員会及び各小中学校に配布する。（予定）（名古屋地区協議会、丹葉・中島地区協議会、西三河地区協議会、豊田加茂地区協議会、新城設楽地区協議会）